

環境ベンチャー 中国進出を加速

経済発展に伴い、環境悪化が進む中国に対し、国内環境ベンチャーの進出が活発化している。環境ビジネス総合研究所(03・3505・0490)が一日に中国山東省の青島市内で開催した「青島―日本環境技術商談会」には、国内の環境関連企業二社が参加。中国側も三五社が出席し、ISO関連のほか、バイオイレイやサイクルなど、日本の先進技術・サービスに高い関心を示した。業務提携や現地拠点の設置などに結び付いた例もあり、今後、環境投資の一層の拡大が期待される同国において、事業拡大を狙った動きが加速しそうだ。

現地企業と提携へ
商談会では、事前に参加企業の事業内容や参加目的を記載したリストを提示。より望ましい相手を見つけやすいよう効果的な「出会い」を演出した。現地の経済団体・青島市環境保護産

業を通じた同国でのバイオイレイを展開してきた寺田鉄工所(084・953・0556)。今回、二社と新たな代理店契約を締結する方向で合意している。

日本企業に対して同工業団地への投資や進出を働き掛けることも、同地全体でのISO14001一括

み取りが不要。現地では節水の環境マネジメントシステム(EMS)維持管理など

業を通じた同国でのバイオイレイを展開してきた寺田鉄工所(084・953・0556)。今回、二社と新たな代理店契約を締結する方向で合意している。

理する独自技術を持つ日本環境カルシウム研究所(川市多摩区、044・911・3423)は、同省最大の廃棄物処理業者と、年明けにも業務提携を結ぶ方向で合意。同技術によって

や緑化関連の国際環境デザイン協会(東京都港区、03・35560・2220)など、幅広い業種から参加した。

日本の技術を信頼

日本の技術・サービスを導入したい行政と、それを活用して事業拡大につなげたい現地企業。中国政府は、進展する環境汚染に歯止め

技術商談会に12社が参加

どを受託する内容。また、これまでに現地企業

「ができる」と強調。商談会では、現地政府や経済団体

の仲介役も果たした。排水汚泥や火力発電所からの石炭灰、焼却炉からの焼却灰などに石灰等を混合して安定化処

を掛けたと考えた。山東省では、今年から二〇一〇年までの五年間で、省内の内総生産(GDP)の約三〇に相当する約三三〇〇億元(約五兆四〇〇億円)の環境投資を計画している。「上海や大連などに比

べ経済発展にやや遅れが見られるため、環境に力を入れることで差別化を図っているのでは(参加者)との見方もある。環境に対する市民の関心も高く、商談会の模様も現地で大々く報道された。

の活動である程度パイプを構築できたので、関心のある方は是非展開して欲しい」と呼び掛けた。同研究所も、ノウハウ提供などを通じてサポートする方針だ。来年度も、スケールアップした商談会を実施する

日本側参加企業一覧

- 国際環境デザイン協会
- 草柳建設
- 木村化工機
- 日本環境カルシウム研究所
- 宇部マテリアルズ
- エクシードエクスプレス
- ゼロエミッションアーバンシステム
- エコビルズ
- アクア・グリーンシステム
- 寺田鉄工所
- FEM

3・3505・1714)

環境投資拡大に商機

中国山東省は今後5年間で約5兆円の環境投資を計画。商談にも熱が入る



理事長で、エコビルズ社長の田宮嘉一氏は「進出に当たってリスクがあるのは確か。しかし、それを具体的にどう取り除くか考えていくと、活路は開けてくる。日本の技術に寄せる信頼も厚い。これまで